

新春特別企画 名物分会ファイル SPECIAL



上棟式を再現してお菓子まき

【村山和・造園・永田慶一記】なごみ分会は、旧伊奈藤分会と旧中原・残堀分会が平成24年の分会再編で合併して誕生しました。

なごみ分会の一番の強みに分会センターがありま

す。分会執行委員

会、群会議、拡大

住宅デー、新年会、他分会との交流、女性の会、健やかシニア友の会、と様々なコミュニケーションの場となっています。そんな事もあり村山大

村山和・造園・永田慶一

和支部の分会の中では、分会活動が旺盛な分会だと思っ

ています。

大懸分会長は今年で3年目

になります。就任当初から分

会、群の活性化を考えてきま

した。それが少しずつ成果と

なって表れています。群長、

群会計は群の事情が許すので

あれば輪番でお願いしますと

群活性化でつながり 連帯感で脱退減

呼びかけてきました。その結果、最近の分会執行委員会には新しい顔が増えて来ています。群が活性化すると横のつながりが増え、連帯感が生ま

れ脱退数の減少につなが

がっている

と思います

す。又アン

ケート、要請ハガキの回収率は毎回上位を占めています。コロナ禍の中でも脱退数が減少しているのは、支部の統計にも表れています。その他任



決起集会も兼ねた秋の分会BBQ大会にて

たため、決起集会も兼ねて河原でのバーベキューを企画。その際も30〜40代世代の活動家を中心となり、ソーシャルディスタンスを意識しつつ計画が立てられていき

ました。お子さん連れもいる中、

このいったレクから未加入者への拡大にもつなげていき、あと9人まで迫った350人、その先の400人を目標として今後も奮闘していきます。



新センターで「年間実増目指すぞ」と意思統一



中央分会センターの外観

「顔の見える・小回りの利く分会」をモットーに、分会役員が中心となって、個人や事業所の仲間への声かけが日頃から行なわれています。

その甲斐もあって、2020年の秋の拡大月間では年間目標を超過達成することができました。

これからも中期目標である300人分会への到達を目指して、奮闘が続きます。

【多摩西部・クレインオペレーター・畑山勝利記】拜島分会は12月現在で341人と多摩西部地域分会内で一番多く、とても活気のある分会です。組合歴40〜1年の幅広い

多摩西部 拜島 アフターフォローで 350人めざす

仲間が共に活動しながら、確実に若い世代に引き継がれていく将来性のある分会とな

っています。

たが、暑くなって一時終息の兆しが見え

たため、決起集会も兼ねて河原でのバーベキューを企画。その際も30〜40代世代の活動家を中心となり、ソーシャルディスタンスを意識しつつ計画が立てられていき

ました。お子さん連れもいる中、

このいったレクから未加入者への拡大にもつなげていき、あと9人まで迫った350人、その先の400人を目標として今後も奮闘していきます。

昨年からは30代の若手役員も活躍しており、分会の今後の成長が今から楽しみです。

昨年はコロナの影響もあり、なかなか分会で集まることもできない状況でありましたが、暑くなって一時終息の兆しが見え

たため、決起集会も兼ねて河原でのバーベキューを企画。その際も30〜40代世代の活動家を中心となり、ソーシャルディスタンスを意識しつつ計画が立てられていき

ました。お子さん連れもいる中、

このいったレクから未加入者への拡大にもつなげていき、あと9人まで迫った350人、その先の400人を目標として今後も奮闘していきます。

コンセプトは、「東京土建のアフターフォロー」です。つまり、加入したその後の東京土建がいかなるものかをアピールする絶好のチャンスが分会レクだと思っています。レク参加の声を掛ける際、「あなたがいないや〜」という想いを組合員さんにつけ、多くの方が参加してくれたことは秋のいい思い出となりました。

来年以降もコロナの影響がどうなっているかはわかりませんが、様子を見てまた分会レクを開催していきたいと思っています。

江戸川・中央 バス通りに面した好立地に 分会センターを移転

【江戸川・書記・中村宏彦通信】江戸川支部の中央分会センターは、今まで長い間、江戸川区中央の区立大杉

小学校の隣にありましたが、老朽化により、立ち退きを求められることになりました。これを受けて、分会では近

隣の物件探しに着手し、2020年9月からようやく新センターへの移転にこぎつきました。

9月13日の新センターでの初日曜行動には分会役員さんが集まり奮闘しました。

以前は接骨院だった建物を居抜きで使いつつ、棚などは分会の皆さんで造ったそうです。内装は白を基調とした明るい造り。場所はバス通りに面しており、分かりやすいところ。さらに近隣には居酒屋が多いため、酒豪が多い

今年から分会長に就任した佐々木分会長は、「物件を見つけたあと、お盆ごろから引越し作業を始め、ようやく新センター移転にこぎつけました。建設職人の組合の利点を活かし、必要な造作は、仲間どうしでやりましたよ。新しくきれいなセンターができたので、みんなが集まりやすい明るい分会つくりを努めていきます」と元気に語ってくれました。

住宅デーで地域の交流 秋は苦戦するも達成



秋の拡大目標を達成してガッツポーズ

【豊島・タイトル・新井睦子通信】南池袋分会は池袋駅に近い、雑司が谷地区を中心に活動しています。

組織人数は12月現在、150人です。若い組合員の居住が少なく、分会役員は年配者が多く、これから10年先が大変だと思っています。どうやって若手に引き継げるかが課題になっています。

昨年はコロナで開催できませんでした。毎年のイベントとして6月に住宅デー、秋には日帰りのバスハイイク、そして新年会があります。

地元の公園で開催する住宅デーでは、役員でチラシ配り

をし、また近隣の小学校にも直接、訪問しチラシの配布のお願いもしています。当日は組合員とその家族の参加で工作教室、包丁砥ぎやまな板削り、焼きそばや手焼きせんべいなどの販売も好評です。住宅相談もあり、地域の方との交流の場になっています。

昨年の秋の拡大では、対象者が少なく最後まで苦労しましたが、何とか目標を達成しました。

南池袋分会は、役員が仲良く、力を合わせ、和気あいあい、次の世代に引き継げるよう楽しく組合活動を頑張っています。